

## こもれび2組

### 自立活動

単元名 いろいろな言葉にふれよう

令和6年12月16日(月) 2校時

児童 こもれび学級2組 3年生1名 4年生4名

場所 こもれび学級2組

授業者 村上 靖

#### 1. 児童観

本学級の児童の特性を振り返るとき、言葉の理解や活用を課題にしている児童が複数見られる。抽象的な言葉を聞いたり読んだりするだけでは理解することが難しく、会話や読み書きにおける語彙数が十分ではない場合や、言葉として知っていても、それらをつないで出来事を流れて文章にすることを課題としている場合もある。また、思いのまま早口で話し続けたり、気になることを繰り返したりする児童も見られる。これらの実態から、児童の語彙を増やすことと聞く側の気持ちを考えたわかりやすい伝え方を学習することの必要性を感じている。語彙の獲得や表現力の向上は、児童の情緒の安定にもつながり、豊かな人間関係を築いていく上で大切なものであると考える。

#### 2. 教材観

はじめて聞く言葉や抽象的な言葉の意味を理解することや、体験したことを整理して文章にする活動を通じて、児童の語彙力の向上と情報整理の方法を習得させたい。視覚優位の児童が比較的多いことから、身近な事柄や興味があることに置き換えた場面絵を活用することで言葉の意味を理解できるようにしたい。また、「いつ、どこ、だれ、何をした、どうして」という観点カードを活用した会話や作文を通して、児童が情報を整理して伝えたいことを表現できると考える。視覚教材や動作化、ICTなどを積極的に活用しながら、課題設定や支援の手立てを工夫することで、児童が言葉への親しみを持ち、交流を通して自己表現することの楽しさや友達への理解を深める機会としたい。

#### 【自立活動の内容項目】

- 4 環境の把握(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
- 6 コミュニケーション(2) 言語の受容と表出に関すること

### 3. 研究とのかかわり

#### 仮説1 <児童の実態に応じた課題設定>

授業の見通しを示しながら、意図を持った学習を複数重ねていくことにより、集中力を保ちながら取り組めるようにする。また、簡潔な文章や場面絵など視覚理解に配慮した課題提示を工夫し、子ども自身が「何を学んでいるのか」がわかるようにする。

#### 仮説1 <児童の実態に応じた手立ての工夫>

言葉と意味と場面絵(イメージ)を合わせて掲示しながら、それぞれを行き来することで「言葉の意味理解」と「行動イメージ」を結びつけることで概念形成を図る。児童の興味や生活に即した内容を提示することで言葉への理解を深める。【5. 個別の実態に詳細を記載】

#### 仮説2 <自己肯定感を高める人と関わる学習活動>

教師や友達との会話を通じて情報を整理したり、経験を伝えたりすることで「自分でできた」という自信を育む。また、発表による友達との交流を通じて、安心感を感じたり違いを認めたりすることでお互いの理解を深めることができる。

#### 仮説2 <自己肯定感を高める教師の関わり方>

肯定的な言葉かけや意図的な問い返しによって、児童が話しやすい雰囲気づくりに努める。また、児童の語彙力や特性など、実態に合わせた声かけや目標を示すことで成功体験や意欲の向上につなげる。

### 4. 単元計画

時数	学習活動	目標
1	<ul style="list-style-type: none"><li>○ ほうこく会の内容を確認する</li><li>・ 目的や計画の確認をする。</li><li>・ 週末写真のとり方や提出の仕方を知る。(絵にする場合も内容を決めてくる)</li><li>・ タブレットの使い方を知る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の目的や見通しを知る。</li><li>・ 教具の使い方を理解し、実際に活用してみようとする。</li></ul>

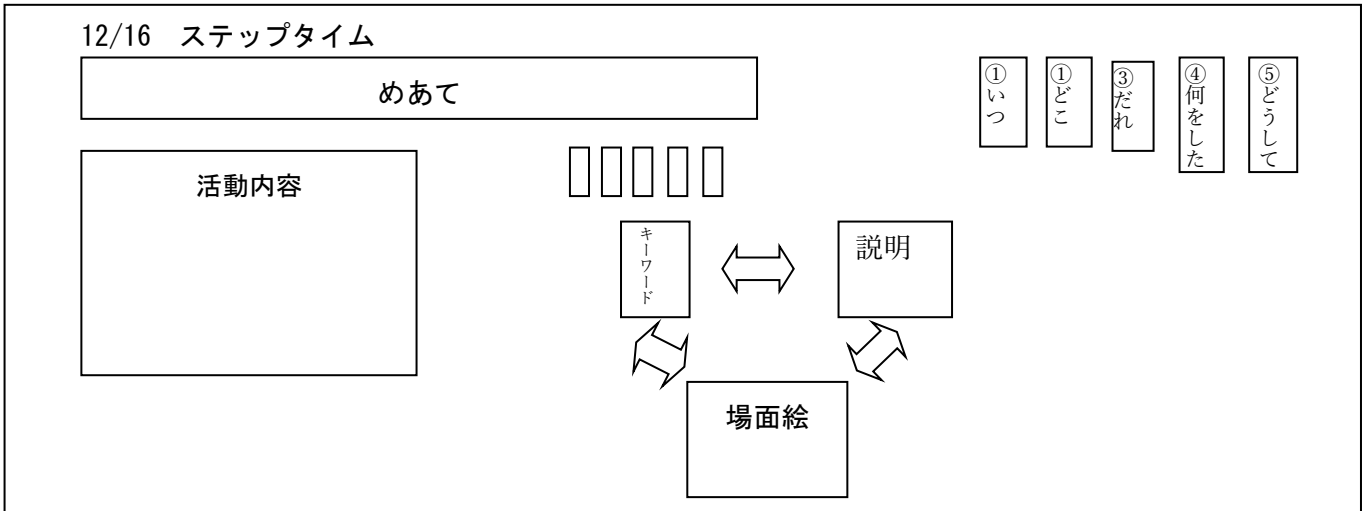
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発表の練習をする</li> <li>・ 経験したことを絵や写真で表現し、観点カードや教師との会話を通して文章化して発表する。</li> <li>絵日記形式、ポスター形式（ICT、手書き）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験したことを文章にする方法を習得することができる。</li> </ul>
4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉の勉強</li> <li>・ 授業（道徳の教科書から）で取り扱う「礼儀」「協力」「尊敬」などの言葉について、カードや図を活用して意味を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抽象的な言葉の意味について、視覚教材を活用して理解する方法を習得することができる。</li> </ul>
6 8 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉となかよくなる</li> <li>・ 言葉の勉強をする。</li> <li>・ お休み報告会をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉の意味について、絵カードや交流を通して考えることができる。</li> <li>・ これまで学習した方法を活用しながら情報を整理したり、自分なりの表現を使ったりしながら発表することができる。</li> </ul>

## 5. 個別の実態・目標・手立て・評価

## 6. 本時の展開

	学習内容	教師の関わり	◆支援の手立て □評価
導入	1. ショートエクササイズに取り組む。 ・体幹運動  2. 本時の活動内容とめあての確認をする。		◆親しみのある活動による緊張感の緩和と集中の継続。 ◆学習の見通しを持つ ・体をほぐす運動 ・言葉の勉強 ・おやすみほうこく会
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             いろいろな言葉を使えるようになろう。           </div>		
展開	3. ことばの学習 ・問題把握  ・交流と意味の確認	・場面絵を提示する 設定や人物の様子を確認する。 (周囲の状況, 表情, 動きから)  ・キーワードを予想する。 ・意味を考える。	◆身近な生活や, 児童の興味を基にキーワードとなる言葉に関連した場面絵を提示する。  ◆これまで学習した言葉や場面絵から自分なりの表現で説明させる。  □視覚教材を活用して「親切」の意味を考えることができる。 (A児, B児, C児, D児 観察)
	4. お休みほうこく会	・教師のお休みほうこくを例示する。  ・活動の手順を確認する。 絵日記かポスター, 手書きか ICT の活用 児童が各自決めて取り組めるようにする。	◆児童の興味を高め, 具体的なイメージが持てるような題材にする。 ◆観点カードを活用し書く内容を整理するように促す。  ◆困っている児童に声かけをして, 教師との会話やヒントを基に書けるようにする。
終末	5. 学習の振り返りを記入する。	・発表と交流の中で, それぞれの文章の観点や児童の気持ちを確認する。  ・児童の頑張りや良かった部分を褒めながら, 次週の発表に意欲がもてるように話をする。	□観点にしたがって情報を整理し, 自分の気持ちを文章にして表現することができる。 (A児, B児, E児 作文)  □自分なりの表現を使って発表することができる。 (C児, D児, E児 観察)

## 7. 板書計画



## 8. 座席配置図

